

第15期4回八尾市図書館協議会会議録

平成19年7月11日(水)午前10時～12時 八尾市役所 第2委員会室

出席者(敬称略)

池内 美和子	(大阪府立中央図書館)
小西 和夫	(大阪市立中央図書館)
大野 義信	(八尾市議会議員)
重松 恵美子	(八尾市議会議員)
中浜 多美江	(八尾市女性団体連合会)
森 弘和	(八尾市生涯学習センター)
隈 美智子	(こぐま文庫)
森田 知香子	(おはなしばすけっと)

職員

藤田 和章	(生涯学習部長)
大谷 進	(八尾図書館長)
米田 敏幸	(山本図書館長)
山東 裕	(志紀図書館長)
福島 英彦	(八尾図書館長補佐)
岡田 哲弥	(八尾図書館利用サービス係長)
田中 由宏	(八尾図書館資料係長)
佐古田 明奈	(八尾図書館資料係)

案件 議事 1. 生涯学習部長挨拶
2. 議題
(1) 平成18年度事務事業報告について
(2) 平成19年度事業方針について
3. その他

議事内容

事務局：おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより第 15 期第 4 回八尾市図書館協議会を始めさせていただきます。本日はご多忙のところ、八尾市図書館協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

平成 19 年度 1 回めの図書館協議会開催にあたり、改めて委員のご紹介をさせていただきます。なお、市議会議員選出委員の方 2 名が、新委員として就任されております。新委員には委嘱状をお配りさせていただいておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。それでは、委員の皆様をご紹介させていただきます。

大阪市立中央図書館企画情報担当課長の小西和夫会長です。

小西：小西です。よろしくお願いいたします。

事務局：八尾市女性団体連合会の中浜多美江副会長です。

中浜：中浜です。よろしくお願いいたします。

事務局：大阪府立中央図書館企画協力課長の池内美和子委員さんです。

池内：池内です。よろしくお願いいたします。

事務局：八尾市議会議員の重松恵美子委員さんです。

重松：重松でございます。よろしくお願いいたします。

事務局：八尾市議会議員の大野義信委員さんです。

大野：大野です。よろしく。

事務局：八尾市生涯学習センター学習プラザ運営審議会の森弘和委員さんです。

森：森です。よろしくお願いいたします。

事務局：八尾市青少年育成連絡協議会の村尾佳代子委員さんです。少し遅れると伺っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局：こぐま文庫の隈美智子委員さんです。

隈：隈です。よろしく申し上げます。

事務局：おはなしばすけっとの森田知香子委員さんです。

森田：森田です。よろしく申し上げます。

事務局：京都橘大学の井上眞澄委員さん、八尾市社会教育委員会議副議長の角田禮子委員さん、八尾市立用和小学校長の磯島秀樹委員さんですが、所用のためご欠席の連絡をいただいております。

任期につきましては、平成 20 年 5 月 31 日までとなっておりますので、よろしくお願いたします。

続きまして、事務局を紹介させていただきます。

(略)

事務局：それでは開会にあたりまして、藤田生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

藤田：皆様おはようございます。ご多忙の中ご出席をいただきましてありがとうございます。また、平素は図書館政策につきまして何かとご協力をいただきまして厚く御礼を申し上げます。委員任期の 2 年間、よろしくお願い申し上げます。

八尾市立図書館におきましては、平成 16 年に策定いたしました「図書館サービス計画」の具体化につきまして、年度ごとに着手しているところでございます。本年度は八尾図書館情報システムの入れ替えに伴いまして、インターネットからも図書予約ができるというような機能の構築もして参りたいと考えております。これによりまして利用サービスの更なる徹底も図りたいと考えています。最後に大きな問題としましては、八尾図書館の老朽化した建物の建替という問題もございます。これについては新市長の意見等も踏まえて、もっと市民の皆さんの意見も求めるべきだという提言がございましたので、多くの方々の意見を反映しながら、市民そして地域に根ざした、地域の皆様の活力源となるような図書館づくりを推進していくことを考えております。

今回の図書館協議会につきましては、18 年度事業報告が主な議題となっております。多くのご助言をいただき、今後の図書館運営に活かしてまいりたいと考えておりますので、甚だ簡単ではございますけれども、挨拶とさせていただきます。

事務局：どうもありがとうございました。それではこれより議事に入らせていただきたく存じますので、小西会長よろしくお願いいいたします。

小西：皆様おはようございます。それでは、第 4 回八尾市図書館協議会、議事に入らせていただきたいと思います。本日、議題にあがっておりますのが 2 点、平成 18 年度事業報告と平成 19 年度事業方針でございます。

最初に平成 18 年度事業報告につきまして事務局の方からご報告いただいて、審議をしてまいりたいと思います。よろしくおねがしいたします。

事務局：それでは、事務局より平成 18 年度事務事業の概要についてご報告させていただきます。

平成 18 年度事務事業の概要 説明（略）

小西：ありがとうございました。もう一つの資料はどうされますか。

事務局：もしよければ、続けて 19 年度の事業方針ならびに本日お配りしている資料のご説明をさせていただきたいのですが。

小西：では、先に事務局の方でご説明いただいて、後に質疑の時間にさせていただきたいと思います。

事務局：それでは引き続き、平成 19 年度事務事業方針について、ご説明申し上げます。

平成 19 年度事務事業方針 説明（略）

小西：ありがとうございました。それでは本日の議題に入っていきたいと思います。

事務局からご説明いただきました平成 18 年度の事務事業報告、それから最後に説明のあった「数字でみる八尾市の図書館」が、18 年度の事務事業の報告に関わる資料かと思えます。報告の内容に関しまして、委員の皆さんからご質問なりご意見なりを自由にいただきたいと思えます。

隈：資料費と貸出点数の移り変わりを資料にして持ってきたのでお配りします。

この前、「We Love としょかん」(注 1)を見せていただいたんですが、これを見たらほんとうに職員頑張ってはるなと思えました。本を間に挟んで、利用者と職員が顔の見える関係できっちりと向き合っていて、そこに物語が生まれてくるというのはすごいことだなと思って、感動いたしました。

資料費について考えて見ますと、いちばんピーク時が平成 13 年でそれから毎年 5 パーセントシーリングとかいう形でだんだん減らされて、毎年 300 万円程度、平均的に減らされていって、ピーク時と 19 年度との差を見たら、非常に大きな差になってきているんですよ。1545 万 7000 円の差が出てきていると。それに伴って貸出冊数、これはあくまでも個人への貸出点数ですけども、確実に減ってきているということになると思います。私は山本・志紀は開館からずっと見てきていますけれど、最初はすごく本が新しかったのが、やっぱり 10 年経つとだんだん古くなってきて、新しい本が紛れてしまってる、という感じがあるんですね。だからこれだけ減らされているということは、私達にとっても（貸出）点数は上がらないなあという感じはしているんです。実際、他にもいろいろ要因はあると思います、八尾図書館の建替だとか、中央図書館が建設されれば、またこの（貸出）点数は上がっていくとは思いますが、現時点ではやはり、資料費がこれ以下になったらどうしようもないなという思いがありますので、その辺のところはどう考えておられるのか、お聞かせいただけたら嬉しいです。

（注 1） 志紀図書館開館 10 周年記念誌として発刊。

大谷：隈委員さんから、資料費と貸出点数につきましてご指摘をいただいた訳でございますけれども、お示しいただきましたこの資料、見てまいりますと確かに資料購入費については年々減少されてきている表れがございます。我々と致しましては、年々厳しい財政状況の中で図書購入費用に充てられるように努力をしている訳でございますが、なにぶん全市的なこともございまして、このような結果になっているというのが実情でございます。ご指摘いただきましたように、八尾の図書館の充実を目指しましてさらに積極的に財政当局へ要望してまいりたいと考えております。

それからもう一点の貸出点数でございますが、先ほど事務局からも説明させていただきましたとおり、たしかに年々減少傾向にあり、こういったご意見をいただきまして、私共職員一丸となって頑張っていく必要があると思っております。

この貸出点数及び利用者数の減少について比較いたしますと、たしかにマイナスというのが数字に現れているのも事実でございます。ただ昨年度は一つの大きな要因といたしまして、4 年に一度の蔵書点検を行ったことがあるのではないかと思います。（点検は）3 館、約 1 週間ずつ、別期間に行いました。また八尾図書館におきましてはアスベストの除去工事のために約 1 週間長く休館したのも一つの要因であろうかと思えます。3 つめといたしましては、18 年度におきまして移動図書館車の更新を行うための改善を行いました。それによりまして、移動図書館車更新への準備のために約 1 ヶ月運行停止とさせていただいたという、大きな要因が元で減少となったと考えております。

一方、皆様方より常日頃からご意見をいただいております、18 年度特に新しい取組みといたしまして、土・日曜日と重なる祝日の開館を実施し、4 日間開館日数が増えました。また夜間開館を実施し、3 館で延べ 118 日間延長させていただきました。さらに新規事業といたしまして、障害者の方等への図書の宅配サービスを開始いたしまして、12 人の方に

登録いただき延べ 60 回実施しております。

従いまして、本来であれば増になるところが、結果的には減という数字になっておりますが、我々もマイナスという数字を重く受け止めまして、今後の図書館サービスの充実を目指し邁進してまいりたく思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小西：ありがとうございます。他に質問はありますか。

隈：努力しておられるのはよく見えています。市民が来やすい雰囲気をとにかく作っていただいて、語りかけてくれることで新しく地域の関係性みたいな、人間関係の構築みたいなものはかられていくと思うので、地域の中での大事な拠点だとして、頑張ってくださいと思います。

小西：他に、委員さんの方からご意見やご質問等ないですか。

中浜：以前より言われている八尾図書館の建替えの件ですが、本年の 6 月に田中市長とお会いする機会がありまして、どうなっているのか再度お聞きしてお話と要望をさせていただいたんですけども、教育センター跡地に新しく建替えをするという返事をいただいたんです。地域の住民や、子どもを持つお母さん方がずっと熱望しているので、そういった方向になるように願っています。今、開会のときも、藤田部長が「活力の源になるように、八尾図書館を繁栄させたい」ということを仰いしましたが、そういった面でもよろしくお願いいたしますんですけどもいかがでしょうか。

大谷：常日頃からこの図書館建設につきましては、委員の皆さん方に本当にご尽力いただいております、この場をお借りいたしまして御礼を申し上げたいと思います。この八尾図書館の建替につきましては、我々といたしましては、早期に建替ができますようにと引き続いて強く要望いたしておるところでございます。具体的な取組みといたしましては、先月、6 月市議会におきまして「図書館計画・基本構想策定のための業務委託料」等が予算計上されるという動きが一点ございます。この基本構想の策定につきましては、八尾図書館の建替を始めとしまして、市役所周辺の市公共施設等の更新をするにあたりまして、各種市民団体・学識経験者の方のご参加をいただきまして、策定委員会を設置して今年度で作っていく、という予定でございます。我々といたしましては、基本構想策定の動向を注視しながら、八尾図書館の再生につきましては、早期に実現できますように努めてまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

中浜：ありがとうございます。策定委員会ということで、どうぞ建替が白紙にならないように頑張ってください。

大野：日本共産党の大野です。私も図書館は週に 1 回ぐらい利用しています。多くは志紀の図書館で、1 回行ったら 5 冊くらいは借ります。先ほど言われたようにね、新規図書が少ないなと思っていたら、やっぱり資料費が減少しているということが原因なんですか。

ひとつはね、「図書館が欲しい」「図書館を身近に」という住民の欲求はかなり根強くあるんです。5 年前の 12 月議会で、亡くなられた前市長が「市民病院の跡地に図書館を建設する」ということを言い切られたことがあったんですね。その後、計画が立ち消えになったのかどうか、教えてほしいんですが。

ちょっと古い資料ですが、1992 年総理府が行った調査ではね、「お住まいの地域に生涯学習を利用するためどんな施設があればいいと思いますか」という質問に対して「図書館が」というのが 25.7 パーセントで一番多いんですね。それで、「公共図書館は住民の身近にあつて、各人の学習に必要な図書や資料、情報を収集・整理し、その利用に供するという、生涯学習を進める上で最も基本的、かつ重要な施設である。」(注 2) ということで、社会教育審議会の社会教育施設分科会、これが定義してるわけですが、特に西南部では公共施設が全く無いんですね。だからそういう点でも、市民病院の跡地に図書館を作るというのはね、このときは確か市長は、住民の要求も聞いたと、多かったと、だからやるんや、という風に答えられたと思いますが、そのへんもどうなっているのか伺いたいと思います。

(注 2) 文部省社会教育審議会社会教育施設分科会「新しい時代(生涯学習・高度情報化の時代)に向けての公共図書館の在り方について」の中間報告・昭和 63 年 2 月 9 日

藤田：大野議員さんのお尋ねは前々からの課題ではございます。前のときは病院跡地という形で市長が提案されました。

私共もその方向には、間違いなく 4 館体制というサービス計画を打ってますので、その方向は曲げずに頑張っていきたいと考えています。

ご存知のように、竹濑・亀井・久宝寺・竜華・大正などやっぱり順番に貸出密度が低いんです。南部方面にはぜひ必要であると、八尾の図書館の老朽化とは別に、地域図書館でもいいから、もう 1 館なんとか入れることが我々の要望で、これは財政・企画の方にもお願いしています。ひとつには、かなりの方が図書館に直接自宅から来られてるというのが、9 割の方が自宅から本を読みにくるというのが多いんですね、八尾の特徴なんですけどね、それでやはり 1.5 キロから 2 キロの範囲で来る人が多いということですから、どうしても南部方面、西南部にも 1 館要るであろうというのが、我々も強く要望しているところであります。

大野：わかりました。この表でもね、受持面積というのが八尾市はかなり低いんですね。人口あたりで言いますと、日本では 2655 館あって、2 万人に 1 館ということになる。八尾の場合は人口 27 万 3000 人ですから、割りましたら 9 万 1000 人に 1 館ですね。だから今、南部地域もそういう状況になっているわけですが、いずれにしてもずいぶん低い状況だと思いますし、地元の方の要求もありますので、これも議会の方でも頑張っていきますから

よろしく。

小西：他に委員さんの方から、ご質問ご意見無いでしょうか。

重松：重松でございます。お世話になっております。以前に委員に入れていただければらくぶりでございますので、また新たによろしく願いたいします。

先ほどご説明のありました 18 年度からの新しいサービスが、障害者の方への宅配サービスと、夜間の開館ということで、利用者の方のニーズにあったように図書館も利用する方々に応じてということで、内容を見せていただいたんですけども、(夜間開館の)日にちが限定されていたり、(宅配サービスの)登録者の数も 12 人と、全体的な数からいって少ないと。いつもよく言われておりますけれども、周知の方がなかなか進んでいないんじゃないかなと、その辺り周知をどのようにされているかということと、以前に市民の方から「図書館でボランティアに参加したいんやけど。」という要望がありまして、連絡させてもらったら、「来てください。」ということだったんですが、このように一市民の方がボランティアに参加したいという場合、その方の時間的な希望とか何がしたいとかいう中身もあると思うんですが、どういう形で参加されているのか、登録状況ですとか、どういう風な分野があっただきたい何名ぐらいの方が活動されているかというような、ボランティアの方の活動状況を教えていただきたいと思います。

小西：では事務局どうぞ。

大谷：今、委員さんから 18 年度に始めた新たな事業、その中でも宅配サービスについての市民の方への周知についてご質問いただきましたが、これにつきましては市政だよりで、また庁内におきましては障害福祉課にチラシを置かせていただいて PR しているところでございます。まだまだ新しい事業ではありますし、我々としても、これで充分であるとは決して思っておりません。機会あるごとに各場所におきまして、積極的にチラシ等置かせていただき、PR していきたいと思っております。

ボランティアの登録等でございますが、現在、学校園におきましても図書館のボランティアとして非常に多くの方にご参加をいただき、「おはなし会」を毎週のように学校図書館でやっていただいているという実状がございます。ということでボランティアさん自身に非常に積極的にこういうことに参加してやっていただいているわけでございますが、個人的にボランティアに参加したいということで、先だって八尾図書館の方にお話ございました。私共といたしましては非常にありがたいということで「八尾図書館では毎週水曜日におはなし会をしておりますし、こういう行事もありますのでどうですか。」とお伝えしたのですが、ただご本人さんがご自分のやりたい内容とですね、こちらが「こういうことはどうですか。」とお願いする内容でちょっと一致をしなかったということで、お見えにならなかったというのが実情でございます。従いまして、我々としては、今、行っている行事

をご紹介させていただいて、それに賛同してご参加いただけるのであれば、また結構だと思っておりますし、逆にボランティアさんの方から何か提案をしていただけるということであれば、我々も一緒に考えていきたいと思っております。

重松：ありがとうございました。登録される方が参加できるような体制をとっていただいて、また宅配サービスも館内でも登録しやすいような環境を設けていただきたいと思っております。

それから、保健センターの中で乳幼児の検診の際に、ブックスタートの話をしたりですとか、4ヶ月検診の場で図書館から来ていただいて検診の合間に、よみかかせの方法ですね、お家の方とかご家族の方に小さいうちからよみかかせをするということを始められるように重要視して、検診のときに図書館から、大変だとは思いますが来ていただいて、センターの方は「図書館さんに来ていただければありがたいです」という話もしてましたので、またブックスタートの方は力入れていきたいと思っているんですけども、絵本の提供もですね、柏原市でも始まってもう2,3年かなあと思うんですが、ブックスタートについてどのようにお考えなのか、よみかかせについても教えていただきたいんですけども。

大谷：ブックスタートについてお尋ねがありましたが、我々といたしましてはやはり0歳児から絵本に親しんでいただくというのは非常に大事なことでありと認識しております。図書館におきましては、子育て支援課また保健センターとも連携をいたしまして、乳幼児のための絵本紹介パンフレットを、乳幼児の4ヶ月と1歳6ヶ月の検診時に配布をいたしまして、乳幼児の読書環境づくりに取り組んでいるところでございます。また、一方の子育て支援センターにおきましては、検診時に絵本のよみかかせを行っていただいております。よみかかせを行っていただくときに、図書館としては積極的に絵本を提供していきたいと思っております。よみかかせを行っていただくときに、図書館としては積極的に絵本を提供していきたいと思っております。よみかかせを行っていただくときに、図書館としては積極的に絵本を提供していきたいと思っております。よみかかせを行っていただくときに、図書館としては積極的に絵本を提供していきたいと思っております。よみかかせを行っていただくときに、図書館としては積極的に絵本を提供していきたいと思っております。

小西：他の委員さんからは。

池内：府立図書館には協力車というものがあるので、回った先の図書館からお作りになったパンフレットとか市民向けに出されている色々な広報物等をいっぱいいただくんですが、その中で八尾の図書館から、いろいろな何々を調べるにはこういう風にしたらいいというような、テーマ別の、今ちょっと手元にはないんですけども、5,6種類以上もの(パンフレットが)あって、凄いなと思ったんですね。中之島図書館のデータベース室まで紹介してくださったりなんかして。去年、今年も書いてありますけど、事業のこれからこういうことしますっていうのに「レファレンス」と項目があって、大事なことだと思っております。今、いろいろなお話を聞いていても、もうほん

とうに資料費が下がるなかで、どれだけ努力してらっしゃるか、いろいろな方面で大変だと思っただけなんですけれど、地域の情報拠点として図書館が生活の中で「調べるために役に立つ」ということは凄く大きな、重要な役目だと今言われてますし、(市民の)皆さんもきっと期待をしておられると思います。こんなにいろいろな種類を作って、物量的にも大変だと思っただけなんですけれど、どこの図書館のどなたががお作りになったのかちょっと聞いていないんですけども、どこかでそういう努力をしておられることが良く見えて嬉しかったんですが、レファレンスとか調べものに対する職員の力量アップのために最先端の何かをやってはるのか、ああいうのを作られたからには何かやってはると思いますけれども、その辺りのご事情というか図書館の中でのご努力というか、それを聞かせていただけたらと思っています。

福島：私で巧く説明できるかどうかわかりませんが、見ていただいた資料なんですが、例えばまず土地の価格、地価を調べるためにはどういった資料を見ていったらいいよ、といったことや、あるいは法律では、こういう分野の法律についてはどういったところを見たらいいか、いろいろなデータベースというものが全国には張りめぐらされてますけれども、そういうものを見るためにはどこから調べていったらいいか、というパンフレットを作らせていただいて、図書館の方で配布できる体制をつくっております。

まず、レファレンスの体制ですけれども、我々が心がけておりますのは、カウンターに入っている人間、配架をする人間、誰に声をかけていただいても、本のことについては目的のところへ導いていけるということを旨としているというのがまず一点です。

また、パンフレット等の作成に関しましては、八尾には 3 館ございますけれども各図書館、代表 2 名ないし 3 名が集まりまして、専門的に研究していくグループで「何をテーマにどういったものを作っていくか」を決めて進めていったということです。なにぶん短い時間といえますが、1 回にかけられる時間も、週に 1 回の夜間開館を八尾・山本・志紀で(曜日)をずらしてやっておりますので、同じ時間帯に全員が集まるというのも難しい状況でございますが、定期的に週のうち何曜日というような日にちを決めてやりくりして、集まっているというのが実態でございます。

池内：ありがとうございます。努力しておられることは、一人一人の力量アップにつながると思いますので、大変だと思いますけど続けてください。よろしくお願いします。

小西：他に質問はありますか。

隈：今の力量アップという点でなんですけれど、アルバイトの方は関係ないのかなと思ってしまいました。広報を見てアルバイト募集のところ、図書館業務で「20 歳以上のパソコン操作ができる人」とってだけで採ってられるのかなあ、司書資格なんていうのは関係ないのかな、と思いました。短い期間ですけれども、市民は「この人がアルバイトさん」

というのは分からないし、最低限図書館のことが分かっておられる方を採用するっていうことで、今までそうじゃなかったのかなあとあって、今回ちょっとびっくりしたんですけども、その辺はどう考えておられるんでしょうか。

大谷：アルバイト採用についてのお尋ねですが、今回、市政だよりにて、期間限定ということで7月から8月9月、約2ヶ月に限りましてアルバイトの募集をさせていただいたということであります。特にこの期間につきましては、学校の休み期間ということで図書館を利用する子ども達が非常に増え、それに伴って業務も増えるということで、アルバイトにお助けいただきたいと、この期間限定でさせていただいたわけです。アルバイトを採用するにあたりましては、いろいろな条件をつけたらどうかと、たとえば司書資格、それも非常に大きな要素になってくるかと思いますが、しかしながらこの期間、我々としては出来るだけ門戸を広げて応募していただき、その中で図書館に興味のある方を採用していきたいと思っているわけであります。司書資格者に限定しなくても興味のある方につきましては、事前にご応募いただくときに「司書資格あり」というようなことは当然明記していただいて、本人のご希望なり勤務場所なりを参考にしながら採用させていただくわけでございます。

隈：司書資格を持っているから即充分に働いてもらえるということとは関係が無いかもしれませんが、八尾の場合は嘱託職員がメインで動いている中で、やはり2ヶ月にしろ入っていただけるのなら、司書資格を持った人で専門性を少しでも上げるような形で採用していったらいいと思います。

小西：ご意見、ご要望ということですね。ご意見の内容は既に19年度方針にも関わってくるような内容で、建替問題等も含めてご答弁いただいておりますので、2番目の議題、19年度方針も含めて、18年度事業報告とあわせて次期以降の内容にも入っていききたいと思います。何かご意見のある方は。

隈：先ほど仰ってましたけれども、八尾図書館改築の問題と中央図書館を建てるということの、順番としては、一応中央図書館をとということで計画も策定されてきていると思うんですけども、私は今日聞いた中で、今の状況では八尾図書館がもうにっちもさっちもいかないからそれをやるということなんですよ。そういうことと、計画の中で(サービスの)目標設定という項目がありますが、その中でそれぞれ登録率が何パーセントを目標とするとか、そのことへの努力と、どっちを先にするのかっていうのが、私自身よく見えないし、順番として、図書館としてはどういう風にお考えになっているのか、もう少し聞かせていただけたらと思います。

大谷：まずはひとつ八尾図書館と中央図書館の建設の優先順位ということと、それと併せ

まして図書館サービス計画の目標をどうするのか、というお尋ねだと思います。

これは内容からいいますと、我々はこのサービス計画に基づいて業務を遂行すると、そのひとつの目標に向かって行うというのが大前提でございます。そういう中で今の時点で優先順位をつけていくと、これは非常に切羽詰まった状態の中で困難な状況になってきているのも事実であろうと思います。現時点のこの図書館の建設問題、我々としましては、八尾市全域の図書館サービス充実のためにも、将来を見据えてやはり 4 館体制は堅持していかなければならないと考えております。

しかしながら、八尾図書館につきましては、皆さん方に本当にご心配いただいておりますように、非常に老朽度が年々激しくなっていておりまして、日常的な雨漏りやひび割れなど目に見えるところで出てきております。専門的に耐震評価を行ったところ、これもやはり緊急に解決せねばならないとの指摘をいただいております。

そういう中で我々としましては、市民の皆さん方にまず安全に利用していただくという対策が必要ではないかということから申しますと、4 館体制は堅持しながら緊急的な課題としまして、八尾図書館の建替をまず先に考えていきたいと思っております。八尾図書館の建替後に中央図書館計画を進めていきたいと、このように思っているわけでございます。

併せて、サービス計画の充実については、今も委員さんの方からお示しをいただきましたように、具体的に数値目標もございまして、平成 22 年までのサービス計画でございますので、これに向かって努力をして参りたいと考えております。そのために我々職員一同、頑張ってお参ります。私個人的なことで申し上げますと、今年館長になったところでございまして、皆さん方にいろいろご指導いただきながら頑張ってお参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

藤田：ご指摘はごもっともなことですけれども、果たして今、中央図書館というようなと構えたものが要るのかどうかということ疑問に思っています。視察で高槻を始めいろいろ見て回ったんですが、非常に高レベルな構想の図書館を持つてはるところもあるんです。28 万都市である八尾市で中央図書館のどんと構えたのが要るのかと言われると、果たしてほんとうにそれでいいのかなと。それよりも、もっと地域的な、地域館の特色を持つのがいいのではないかと。ですから、それによって、先ほど言いましたように 4 館は堅持して、何としても南部方面に欲しいなあと、これが正直な気持ちです。

ご存知のように中央図書館ってコストが凄いですね。メンテナンスや人員・システムも含めまして、やはりもう少し見直すべきかなあと。だから中央図書館って上げてますけれどもね、どちらかと言うと「数」でいこうかなあという正直な考えもあります。

むしろ今「地域性」というのが非常に重要視されています。千代田区なんかでビジネス対応の 24 時間オープンというようなところも出てきたりですか。八尾はそこまでいいですけども。

やはりこれからは図書館には地域の地盤が大事だと思っていますので、今、館長が申しましたように、我々はとりあえず「数」で市民にたくさん読んでいただくというのが基本

ですけれども、それを現市長がどうお考えなのか、それはまだ全く分かりませんが、担当としてはやっぱり「数」の方で行きたいなと考えております。

隈：私の方でもどちらかと言うと身近にあって欲しいと思いますし、地域館といいますか、顔の見える関係にしていくことが、図書館のメインの仕事のひとつになるかなと思うんです。ただひとつ心配しているのは書庫の問題なんです。今、3館とも書庫がどうしようもない状況にきていると思いますので、それをどういう形でクリアしていくのかということも併せて、図書館を増やす、拠点を増やすということの中に考えていって欲しいと思います。

廃棄処分の数が多いということは、購入年度の影響もあって点数が多かったから今回は多くなっていると思いますけれども、でも開架スペースもそれほど多くない以上、やはり書庫がきちっとあるということは大事なことだと思いますので、その辺は考えていただきたいと思います。

大谷：書庫の確保についてご意見をいただいた訳ですが、八尾図書館は昭和 53 年開館、志紀・山本については平成 8 年開館で、八尾図書館には非常に歴史がありますし、志紀・山本についても開館して 10 年が過ぎたこととなります。確かに開館した当初には、蔵書スペースにも余裕がありましたが、これだけの年月が経ってまいりますと、非常に蔵書数も増加してきたということで、今ご指摘いただいたように書庫の広さが充分確保できていないという状況になっていることも事実でございます。そういう中で、今後図書館の蔵書数をどのように増やし続けていくかという問題もあるかと思います。そこでひとつは図書館の中でスペースを確保できるように工夫していかなければならないということは思っております。物理的に無理なところがございましたら、館の外なりで別棟でも検討していくことも必要かと思っております。

何れにしても、ご意見をいただきましたので、これについては内部の方でも十分に検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

小西：ちょっと私の方から一点お聞きしたいんですが、4館体制とか今後いろいろと焦点になっていくと思うんですけれども、毎回この事務事業報告書が非常に丁寧にまとめてあって感心しているんですけど、基礎的な数値として、登録率のところ「地区別の登録率」というのが1つあれば、南西部の利用が少ないというのが数値として分かるのではないかなと。このパーセンテージは全体の登録者の、地区ごとの内訳ですので、地区ごとの人口に対して（登録率を）出すと、実質登録率が地区ごとにどれだけ差があるのかというのが明らかになって、いろいろ対外的な説明についても使いやすいのかなというのがあります。

それから図書館の機能面ということで、中央図書館の是非ということもこれから焦点になるとは思いますけれども、先ほど（八尾市立図書館が）レファレンスを非常によく頑張ってもらったというお話があったんですが、それが数値として統計等に出ていないというのがあって、職員さんの頑張りなり或いは図書館の機能としてこういう業務があるという

ことを、これも対外的に周知していくために、一回数値として出しておいた方が今後の議論の参考になるのではないかと、これは意見といいますか、もちろん把握はしておられると思いますけれどもちょっと今回のこの報告書の中で感じた点です。

他に委員さんの方から意見はないでしょうか。

森田：私は図書館でボランティアをさせていただいてるんですけども、今年度の行事とかを紹介している辺り、11 ページのところ、「ボランティア主催行事」というのを載せられてるんですが、八尾と志紀は載ってるんですけども、山本図書館でやってるのが載ってないんです。一応私は山本で活動してまして、八尾市の市民活動助成金（注3）っていうのをいただいて、紙芝居講座っていうのを 5 回連続講座でやらせていただいているんですけども、山本だけなんで抜けてるのかなって思ったんですが。

（注3）八尾市市民活動支援基金事業助成金

福島：集計上の手続きのことですが、山本図書館でしていただいている「手づくり紙芝居まつり」、我々もきちんと認識しております。11 ページの「子ども読書週間行事」というところで「手づくり紙芝居まつり大会」ということで実施回数 2 回、ボランティアの方、図書館員の方、ということで（表の中に）書かせていただいております。集計の手続き上で山本図書館のところではなくこちらに入ってしまったんですけども、今後もし分かりやすくということであれば、別枠で（表から）外に出してということであれば、そのようにさせてもらいたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。こちらが忘れて抜けているのではなくて、きちんとそれは認識しておりますし、表の中に入れさせていただいております。ただ、別枠でということでありましたら、次回から集計の手続き、方法を変えていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

森田：「手づくり紙芝居まつり」というのは、（講座で作った）紙芝居を見ていただく、子どもに対しての行事なんですけれども、講座とまつりっていうのはやはり違うもの、別枠と考えていただきたいと思います。紙芝居を作る講座の方はボランティアが主催でやっている行事ですので、図書館と一緒にやっている行事（紙芝居まつり）とはまた別枠でよろしく願いいたします。

隈：それぞれの館でそれぞれのボランティア団体があるということ、開館当時から長年頑張っている会があるということは報告書の中にきちんと入れていって欲しいと思います。それぞれがほんとうにユニークな活動をしていると思いますので。

大谷：今、ボランティア活動の明示についてのご指摘をいただいたわけでございます。やはり誰が見ても分かりやすい、どんな行事をやっていただいているのかということがすぐ

に分かるような形に、今後は改めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

大野：先ほど図書館司書の問題について言われたんですが、資料を見ていたら府下で正規職員の割合が非常に少ない。57人中17人ですか、32位になってますね。また募集もそういう形でやられていると。図書館法でいいましたら、「館長並びに……教育委員会が必要と認める専門的職員……を置くことを求める。」これ第13条ですね、それから公立図書館の運営上の望ましい基準（注4）というのがあって、この基準では「館長は、図書館の管理運営に必要な知識・経験を有し、図書館の役割及び任務を自覚して、図書館機能を十分発揮させられるよう不断に努めるものとする。館長となる者は、司書となる資格を有する者が望ましい。」とあります。館長が3人いらっしゃるわけですが、司書の資格を持っておられるのかどうか。さらに、専門的職員、司書は「資料の収集、整理、保存、提供及び情報サービスその他の専門的業務に従事し、図書館サービスの充実・向上を図るとともに、資料等の提供及び紹介等の住民の高度で多様な要求に適切に応えるよう努めるものとする。」ということもある訳で、実際に50何人かの職員中、司書の資格を持っている人がどうなっているのか、先ほど（お聞きしたように）館長自身が司書の資格を持っておられるのかどうか、それともうひとつは学校図書館の関係も司書を置くということになっていると思いますが、そこらの実態もちょっと教えていただきたいと思ひます。

（注4）生涯学習審議会社会教育分科審議会 計画部会図書館専門委員会・平成13年7月18日 文部科学省告示。 以下の下線部も同。

大谷：今の野議員さんからの、図書館長が司書資格をもっているのかというご質問ですが、私はこの4月に異動で変わってきたわけですが、司書資格は持っておりません。志紀図書館長も持っていませんが、山本図書館長については司書資格を持っておりません。一般職員については、八尾の3館で55人体制で行っているわけですが、そのうち司書資格を持っている者は37名でございます。従いまして、国が望ましいとしている配置基準の人口規模からいきますと、55人体制が望ましい数字になっていると理解しております。司書の資格につきましても望ましい数値目標を掲げておりますが、人口規模からいきますと、この37名はそれも決して劣っている数字ではないと理解しております。従って、図書館運営にあたりましては、行政職員、また専門であります司書職員、両方で運営することが望ましいのではないかと、またこの55人というのがその理想にも近い数字であろうと、このように考えております。

藤田：学校図書館の関係でございますが、図書館の学校への貸出は1校あたり年間約500冊ということで実施しておりまして、当然学校にも司書の先生がおられますけれども、よみかせとか研修会とか選書相談とかこういった活動のために、私どもの司書を派遣しております。基本的にはこれから学校図書が重視されてきておりますので、その充実を今

後も図っていきたいと考えております。

それから、嘱託員は全員が司書でございまして、その方々がベテランであるということが八尾市の図書館の特色で、ほんとうに今はレファレンスが重要で、もう単なる貸本屋という図書館では駄目でございますので、ほんとうにいろいろ相談を受けて、テーマに沿ったものを市民の方に教えて、来館時にもいろいろアドバイスするといった、そういうのはやはり年数がかかるんですね。やっぱり 10 年で一人前だとかいう話も聞きますけれども、とりあえず司書の方に頑張ってもらっているのが実状で、これが八尾の図書館のひとつの特色として、本来なら職員でというのはいいんですけど、我々としては嘱託員の方に頑張ってもらいたいという姿勢で今まで来ております。

限：学校図書館に関してなんですが、今までは学校図書館の体制が出来ていなかったから、サポートのしようがないというお返事をいただいていたけれども、このところ学校図書館整備モデル事業だとか、学校図書館司書、専任司書配置モデル事業とかいう形でそれぞれ展開しまして、本当に動き出したばかりなんですけれども、それに対して公共図書館がどういうサービスをしていくのかということ、前もって少し考えていって欲しいなと思います。

学校貸出校数が前年度は 33 校になってますけれども、小学校だと(全部で)29 校ですよ、中学校が 16 校、あと保育所だと幼稚園だと合わせたら結構な数になることを思えば、この 33 校では少ないと思いますし、学校図書館にもコンピュータが入って検索が出来るようになってきているということなので、それと図書館を繋げて技術的に動かして欲しい。

これまで学校図書館の本っていうのが、殆ど動いていない。古い古い図書がいっぱい並んでいて、これ動いているのっていう感じがありました。やはり先ほども言いましたように、図書館というのは資料が新鮮であるっていうのは大事なことだと思いますので、学校図書館と公共図書館がうまく具合に連携をしていって欲しいと思います。

それに関連してなんですけれども、移動図書館の利用のところ、たとえば竜華小学校や刑部公園や長池小学校とかいうのは、結構お母さん方が昔から学校との関係の中で、おはなし会をしたりして、子どもたちに本を手渡してきたる伝統があるなかで、児童書の利用が多いと思います。将来はこの子達がやはり八尾の図書館を支えていくと思いますので、今後前向きに検討して欲しいと思います。

大谷：今、委員さんの方から図書館と学校の連携について、今後もさらに引き継いでやっていくようにというご意見をいただきました。我々といたしましても、やはり子どもたちに読書に親しんでいただく、そういう環境づくりは非常に大事だと思っております。我々も、図書館は図書館の、また学校は学校の役割をお互いに話し合いながら、その中で図書館として何が出来るかということも考えながら、学校と読書(のための環境)づくりとして努めて参りたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

森田：学校との関わりの中で、私たちボランティアも一点あります。

自分の子どもを通わせている小学校などでしたら、学校の先生に「私たちこういう活動をしていますので、どうぞおはなし会をさせてください。」ということをお願いをして、学校へ行かせていただいたりするんですけども、学校側はやはりボランティアグループといってもどういうものか分からないという風に不安がられるんです。何か変な団体だったら困るということで、子どもを通わせている父兄がいるときだけは、そのお母さんがいらっしゃるから、PTAが参加しているからということを受け入れてくださるんですけども、卒業してしまいますともう何処の誰か分からないと、今まで行った人でも、もう何処の誰か分からないという団体になってしまうんです。

ですから図書館の方でその窓口になっていただいて「学校からこういう依頼が来ているんだけれども行ってくれないか。」という風にしていただいたら、私たちもおはなし会等の活動をするのにすごくやりやすくなると思いますので、よろしく願いいたします。

大谷：ありがとうございます。図書館を預かっているものとしては非常にありがたいお話をいただいております。我々としてはそういう声を大事にして、やはり 3 館ございますのでそれぞれの館長自らそういうことを心がけながら、積極的に学校に働きかけていきたい、また教育委員会にも働きかけていきたいと思っておりますのでよろしく願いします。

小西：ありがとうございました。他に特にございませんか。

隈：平成 16 年の 7 月の分までは図書館協議会に関しての会議録を頂いていたんですけども、それ以降頂いていないんです。前みたいにはっきりした会議録はしんどいかと思いますけれども、やはり出していただけたらと思っています。私は前のときに何言ったかなあとかいうのもありますのでよろしく願いします。

大谷：会議録の提示について、だいぶ途切れているのではないかというお話をいただいたのですが、これにつきましては今後反省しながら、我々がその度に皆さん方に見ていただくようにしていきたいと思っております。

この会議も基本的には一般公開させていただいてます。本日の傍聴者はございませんが、この会議について会議録また資料等についても市民公開いたしております。市役所の 3 階にございます情報公開室におきまして公開をさせていただいております。ということで、皆さん方にはまた目を通していただけたらと思っております。よろしく願いします。

小西：他にございませんか。

それでは、本日の議題である 18 年度の事業報告並びに 19 年度の事業方針についての審

議を終了し、内容について協議会として確認したいと思います。あと「その他」ということで会議次第に載っておりますが、事務局の方から何かございますでしょうか。

福島：最後に隈委員さんの方からもご指摘ありましたけれども、議事録の要旨につきましては会議終了後作成いたしまして情報公開室に配架させていただきますので、よろしくお願いたします。また隈委員さんの仰った内容は、ホームページへのアップのことかなと思いますので、その件につきましてはまた早急に対処していきたいと思っております。

次回の協議会については、例年どおり 11 月中旬に他市町村先進図書館の視察という形で現在予定しております。また 11 月中旬に実施ということになりますので、その 1 か月前には皆様にご案内できるようにさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。以上でございます。

小西：各委員さんの方からは何か。

そうしましたら、以上で本日の第 4 回の図書館協議会を終了いたします。ありがとうございました。本日はどうもご苦労様でございました。

一同：どうもありがとうございました。